

ナカノシマ大学2026年9月特別講座

あの人の母校で贅沢な「豊子トーク」開幕

『大地の子』執筆中の
山崎豊子(1987年
／自宅の仕事場で)



田中光子編集者



荒井真理亜先生



小八木利子さん



香西順子さん

9/26(土) 15:00~17:00 (14:20開場)

会場 相愛大学本町キャンパス (中央区本町4-1-23 地下鉄御堂筋線・四つ橋線本町駅)

受講料 2,500円 (大学生以下2,000円) ※学生証を提示 定員 120名

第1部「相愛女学校時代の山崎豊子」荒井真理亜 (相愛大学人文学部教授)

第2部「魅力的、でも大変なおば・山崎豊子」小八木利子・香西順子 (山崎豊子の姪)

進行・聞き手 田中光子 (文藝春秋『作家・山崎豊子』編集者)

主催 ナカノシマ大学事務局 (株式会社140B) 共催 相愛大学 協力 (一社) 山崎豊子著作権管理法人、
(一財) 山崎豊子文化財団、新潮社、文藝春秋、毎日新聞社大阪本社、ラジオ大阪、西日本書店

「強大な敵と闘う男の物語」だけが山崎豊子作品の魅力じゃありません!

ナカノシマ大学では、山崎豊子に関する講座を4回開催し、講師の方々が彼女の「作品に注ぐ並外れた執念」や「人物造形の巧みさ」「船場商人の律儀さ」などの横顔を取り上げてきました。今回は、8月に発売され、未発表原稿満載の著書『作家・山崎豊子』を編集した田中光子さんが進行役を務め、これまでにない華やかなトークで大作家を偲びます。

ゲストはこの本に寄稿した方々。「抜群の文才を誇った女学生」の顔や「お洒落好き、美味しいもの好きで面倒見のいい(けど厳しい)おば」の顔など、山崎豊子の知られざる一面にスポットを当てます。

〈講師からのメッセージ〉

2024年の生誕100年を機に、山崎豊子先生の女学校時代の作文や、毎日新聞時代の署名記事などが発見されました。『作家・山崎豊子』ではそれらのほか、大阪の女友だちについてや、おしゃれ哲学、新婚時代のお正月の風景などなど、女らしいエッセイを集めています。

そこで第1部では、相愛女学校時代の文章について、日本近現代文学の荒井真理亜先生から。第2部では、姪の小八木利子さん、香西順子さんから秘蔵エピソードをお伺いします。どうぞお楽しみに! (文藝春秋・田中光子)

たなか・みつこ 東京都生まれ。小学校から高校まで箕面市で育つ。『文藝春秋』『週刊文春』編集部を経て『文学界』編集長を務める。書籍では『松本清張全集(第三期十巻)』や、山崎豊子の作家活動で欠かせない秘書・野上孝子の『山崎豊子先生の素顔』などを担当。大作家の晩年を知る関係者の中でも希少な女性編集者。



当日は会場で、新刊『作家・山崎豊子』(税込2,640円)ほか、著書や関連本を販売します。

→受講申込は、こちらのQRコードからナカノシマ大学のWEBで受付します。

※次回は10月14日(水)18時予定……「名建築の超個性派オーナー 青山ビルと生駒ビルディング」
講師=陸奥 賢(まち歩きエキスパート)

